

貯法
室温保存、気密容器
遮光保存動物用吸入麻酔剤
劇薬 要指示医薬品 指定医薬品承認指令書番号 5動薬第2455号
販売開始 2024年8月

リケンイソフルラン

【本質の説明】

本剤は、ハロゲン化エーテル系の吸入麻酔薬であるイソフルランを有効成分とする動物用吸入麻酔剤です。イソフルランは、麻酔効果の発生とその後の覚醒が速く、麻酔深度を迅速に変化させることができます。

【成分及び分量】

本品100mL中

有効成分	含量
イソフルラン	100mL

【効能又は効果】

イヌの全身麻酔

【用法及び用量】

導入：睡眠鎮静剤または注射麻酔剤の前投与あるいはマスク装着によるイソフルランと酸素の混合ガスの吸入によって麻酔導入する。通常、マスク装着による導入は5.0%以下の濃度で使用すること。

維持：導入麻酔後、気管内チューブを確実に挿管させてから、イソフルランと酸素の混合ガスの吸入により外科的麻酔状態を維持する。動物の臨床徴候を厳重に管理しながら、最小有効濃度を吸入させる。

【使用上の注意】

（基本的事項）

1. 守らなければならないこと

（一般的注意）

- 本剤は、要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋 指示により使用すること。
- 本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。
- 本剤は、効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。

（取扱い及び廃棄のための注意）

- 変色が見られた場合には、使用しないこと。
- 小児の手の届かないところに保管すること。
- 本剤の保管は、直射日光、高温、及び多湿を避けること。
- 使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。

2. 使用に際して気を付けること

（使用者に対する注意）

- 適切な換気設備のある手術室で使用すること。
- イソフルランの気化器への分配等の取扱いには気をつけること。
- 皮膚や目に触れた場合すぐに洗い流すこと。

（取扱い上の注意）

- 正確な濃度の気体を供給できる専用の気化器を使用すること。

（専門的事項）

① 対象動物の使用制限等

- 本剤または他のハロゲン化麻酔薬に対して過敏症のある動物には使用しないこと。

② 重要な基本的注意

- 本剤の妊娠動物および幼若動物に対する安全性は確立されていないため、注意して投与すること。
- 次の動物には慎重に投与すること。
 - 肝機能障害あるいは腎機能障害のある動物。
 - 高齢動物。

- 本剤の使用にあつては、動物の状態に応じて、抗コリン作用薬、鎮静薬、筋弛緩薬、又は適切な導入麻酔薬を選択し前投薬として使用すること。
- 本剤の使用前は原則として絶食させておくこと。
- マスク装着による導入は動物が暴れることがあるので、最初の保定を確実にすること。
- 本剤はなるべく蘇生設備や呼吸維持に必要な設備のある所で使用すること。
- 麻酔の深度は手術などの処置に必要な最低の深さにとどめること。
- 本剤は呼吸機能・循環動態に対して抑制的に作用するため、吸入中は厳重に動物の全身状態を管理すること。
- 本剤は濃度依存的に呼吸抑制・血圧異常が頻発する傾向があるため、注意して投与すること。
- 本剤は高濃度の吸入により気道刺激が認められることがあるため、注意して投与すること。
- 本剤の吸入中は体温の下降が認められるので、動物の保温状態に注意すること。

③ 相互作用

- アドレナリン作動薬の併用により不整脈が現れることがある。

④ 副作用

- 慢性的な僧帽弁閉鎖不全及び完全房室ブロックを併発する個体において、極めて強い不整脈が起こる。

【薬理学的情報等】

麻酔維持の指標となるMAC(Minimum alveolar concentration、最小肺泡濃度)とは投与動物の半数が疼痛刺激に反応しなくなる際の終末呼気中の麻酔薬濃度(%)であり、イソフルランの各動物種におけるMACは次の通りである。

動物種	MAC(%)	動物種	MAC(%)
イヌ	1.28 ⁽¹⁾	マウス	1.30 ⁽⁴⁾
ネコ	1.63 ⁽¹⁾	ブタ	1.90 ⁽⁵⁾
ウサギ	2.05 ⁽²⁾	ウシ	1.27 ⁽⁶⁾
ラット	1.38 ⁽³⁾	ウマ	1.30 ⁽⁷⁾

(1) Steffey EP et al. *Am J Vet Res*. 1977 Nov;38(11):1833-6.(2) Quasha AL et al. *Anesthesiology*. 1980 Oct;53(4):315-34.(3) White PF et al. *Anesthesiology*. 1974 40:52-57.(4) Goto H et al. *Exp Anim* 53(1), 63-65. 2004.(5) Malavasi LM et al. *Laboratory Animals*. 2008 Vol 42, Issue 1. 62-70.(6) Cantalapiedra AG et al. 2000 *Vet Anaesth Analg*. Jan;27(1):22-26.(7) Robert JB. 2013 *Vet Clin North Am Equine Pract*. Apr; 29(1): 69-87.

【製品情報お問い合わせ先】

日本全薬工業株式会社

〒963-0196 福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1

フリーダイヤル 0120-452-793

受付時間 9:00-17:00（土日祝日・弊社休業日を除く）

販売元



日本全薬工業株式会社

ZENOAQ 福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1

製造販売業者



リケンベッツファーマ株式会社

埼玉県入間郡越生町成瀬829-6

開発元



Veterinarian Medical Development CO.LTD

獣医医療開発株式会社

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発生に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所（<https://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>）にも報告をお願いします。